

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		
1	確かな学力	一人一人の子どもの学力向上 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用 言語活動の充実	・学習課題の明示と言語活動を終った課題に応じたまとめ・振り返りの徹底。 ・少人数教育・教科担任制の実施。・Tの協力指導体制による学習の充実。放課後等の補修。 ・鳳徳タイムやポスター発表会等の実施。・読み聞かせ、100冊読書の取	・ブレジョイント・ジョイントプログラム・研究会テストの結果。・年間反省での意見。 ・子どもはあきらめずに学習している。・子どもは家庭学習の習慣が身に付いている。 ・学校で自分の思いを話している。・家庭で本を読んでいる。	中・高学年では全体として全市平均を上回る結果であったが、低学年では課題が残った。 概ね学力の定着が見られるが、D層の児童への支援は十分とは言えない。 児童の実現度は他の項目より低く、保護者・教職員のニーズ度は高い。	⇒
2	豊かな心	豊かな感性・情操を育む教育の充実 支え合い高め合う集団作りの推進と絆づくり 道徳教育の充実	・伝統文化体験、宿泊自然体験等、体験活動の進化。・音楽活動の充実。 ・たてわり活動等。・SC・SSWと連携したケース会議の充実。・感謝の会の実施。 ・道徳的価値観の自覚を求める指導。・あいさつ等学習規律の徹底。	・子どもは進んであいさつをしている。・子どもは物を大切にしている。 ・子どもは楽しく学校に通っている。・子どもは友だちと仲よくしている。 ・子どもはものを大切にしている。・子どもはきまりや約束を守っている。	児童の実現度は低くはないが、教職員のニーズ度は高い。 どのアンケートにおいても実現度は高く、地域の声による評価も高い。 規範意識は高いが、後片付けにおいては保護者や教職員のニーズ度が高い。	⇒
3	健やかな体	保健教育の充実 運動やスポーツの実践と体力の向上	・すこやか週間の設定による家庭と連携した生活チェック・安全教育の徹底。 ・体育的行事や安全教育の充実。・地域と連携したスポーツ活動。	・子どもは早寝早起き等、健康を考えて過ごしている。・すこやかチェック ・運動会、マラソン大会における児童の変容・地域行事への参加	基本的な生活習慣は身に付いているが、睡眠時間が短く、朝一人で起きられない児童が多い。 大変意欲的に取組、かつ安全に気をつけて活動した。地域行事への参加は多かった。	⇒
4	独自の取組	進んで学び合い、共に生きようとする子の育成 小中一貫教育充実	・音楽科研究の取り組み ・音楽集会の充実。 ・HATT(3小・1中)の取り組み。	・授業を伴った研究会での意見。・研究反省の意見。 ・主任会での意見 ・かがやく丘コンサート、合同演奏会への参加	音楽を通して共に学び合う姿が見られたが、組織としての課題は残った。 子どもの実感について交流した。保護者・児童の参加が多かった。	⇒

学校名(

京都市立鳳徳小学校)

評価日	平成28年3月1日
評価者・組織	学校評価委員会
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策
指導体制や学習環境を整えることで子どもたちが落ち着いて学習に取り組み、基礎的学力は身に付いてきた。特に高学年において話し合い活動や自分の考えをまとめて発表する活動も充実してきた。低学年から系統的に言語活動を取り入れていく必要がある。	年間計画として年度当初に鳳徳タイムやポスター発表会の時期や具体的な学習内容を決め、余裕を持って取り組めるようにする。一斉発語等、全員が自分の考えを伝える場面をつくる。組織的に読書環境を充実させ、100冊読書など、読書に対する主体的な取り組みができるようにする。
長期欠席もなく、概ね楽しく充実した学校生活を送っている。高学年での伝統文化体験では、地域女性会や専門家の協力によって、豊かな感性や情操を育て、道徳的価値観を自覚することにつながった。児童が主体的に取り組み感謝の会を実施することができた。	・児童会の主体的な活動による挨拶運動や規律の徹底を図る。 ・地域、保護者への感謝の会を継続して実施する。 ・たてわり活動の年間計画を見直す。 ・音楽集会を継続して行う。
体育科の学習では、主体的に様々な競技に取り組む姿が見られ、地域と連携したスポーツ活動には毎回多くの児童が参加した。すこやかチェックでは、睡眠に課題が残った。	・体育学習に必要な器具の充実。 ・睡眠の大切さを指導すると共に、早寝早起きについて家庭と連携する。 ・給食後の歯磨き指導を検討する。
・校内研究では、音楽科を中心として3年、一定の成果は得られたが、組織的な課題が残った。子どもたちの学力向上につながる取組も充実させる必要がある。 ・中学校を中心とした各主任会など、連携が深まってきている。	・校内研究の組織を見直し、研究授業だけに止まらず、学力向上のための研修を実施することで、系統的な学習規律を確立できるようにする。 ・HATTスタンダード作成に向けて、計画的に話し合いを進め、29年度完成を目指す。

学校関係者評価	
評価日	平成28年3月9日
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 ○学校評議員
学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
家庭教育力が高く、学校で落ち着いて学習する環境が整っている。家庭での読書については、保護者がいっしょに本を読んだり、本を選んだりする姿勢が大切である。	・図書ボランティアによる週1回の読み聞かせやブックパネルシアターは、本に親しむよい機会となっている。今後も継続し、家庭での読書習慣につなげていきたい。 ・放課後の居場所づくりへの協力。
・感謝の会やボランティアの活動では、高学年の気持ちのよい挨拶や礼儀正しい様子に感心した。 ・コンサートや集会での子どもたちの挨拶や歌声に感動した。 ・1年生がいつも気持ちのよい挨拶をするようになった。	・子どもたちの主体的な活動を促すような工夫をする。 ・感謝の会は、地域、保護者にも好評である。子どもたちが地域の一員として自覚できるよう、継続できるよう協力したい。
地域と連携したスポーツ活動には、多くの児童が参加しており、保護者の関心も大変高いことが感じられる。	保護者が地域と連携した活動に関われるように工夫し、子どもたちの課題も共有できる場となるようにする。
・音楽集会の取組が充実してきた。 ・合同演奏会の会場が本校になって、保護者の参加が増えた。	・子どもたちが発表する場を今後も充実させるために支援していきたい。

## 4 総括・次年度の課題

- ・校内研究組織を見直し、研究授業や指導案検討、模擬授業などを実施すると共に、基礎的・基本的学力の向上へ向けた具体的な取組を充実させ、教員の授業力向上を目指す。
- ・年度当初に鳳徳タイムやポスター発表会などを学校行事として年間計画を立てることで、見通しを持って指導できるようにする。
- ・保護者、地域と連携しながら、子どもたちの主体的に学ぶ喜びを味わわせ、自ら学習に取り組んでいく姿を追求する。
- ・地域と協働の取組がある強みを生かし、総合的な学習の時間の内容を充実する。地域性を生かした道徳の教材作成にも取り組む。